

地域経済分析2024【北海道恵庭市】

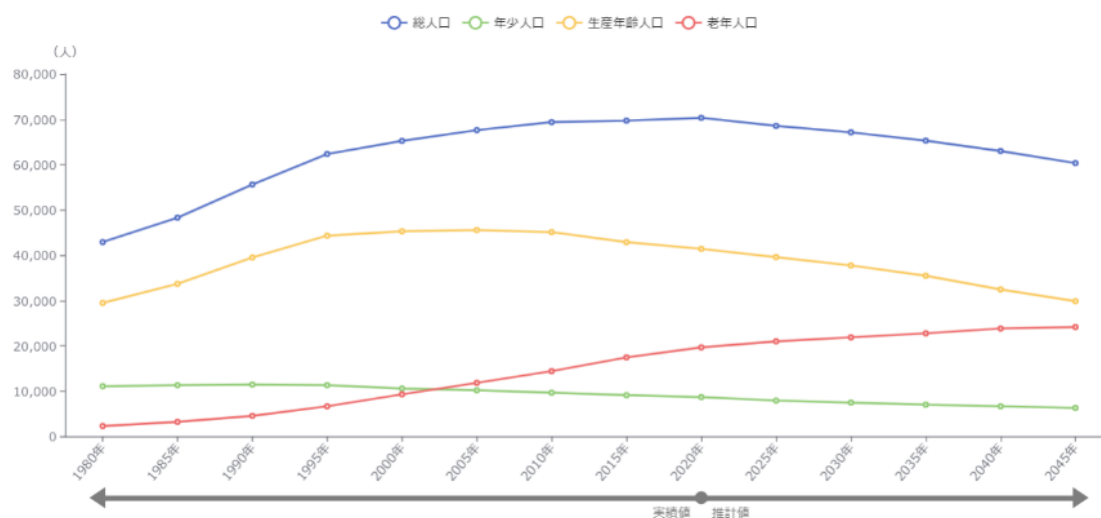
RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフで分かりやすく「見える化」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

【市内人口の推移】

■2020年の人口は総人口 70,331 人。10 年前の 69,384 人と比較して増加している。

しかしその後は緩やかに減少していくことが見込まれている。

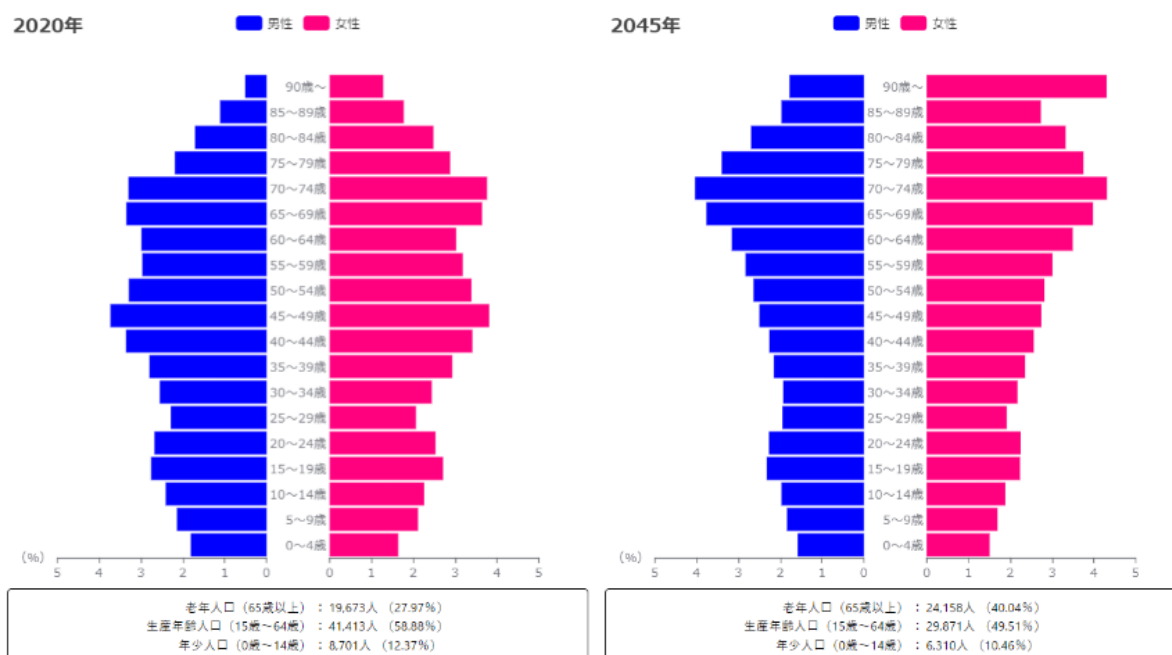
■生産年齢人口、年少人口は減少していく一方で、老年人口は増加していく見込み。



【人口ピラミッド】

■現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。

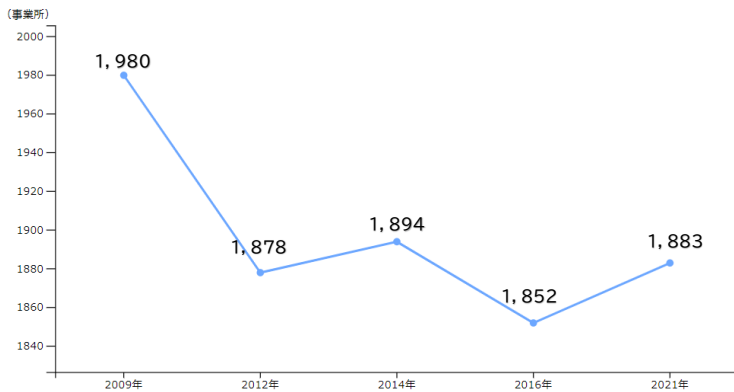
■2020年、2045年の人口ピラミッドは共に「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の27.97%から2045年には40.04%まで増加することが見込まれている。また、生産年齢人口は2020年の58.88%から49.51%まで減少する見込み。



【事業所数の推移・業種別割合】

■2009年の1,980事業所から増減を繰り返し、2021年には1,883事業所となり4.8%減少している。

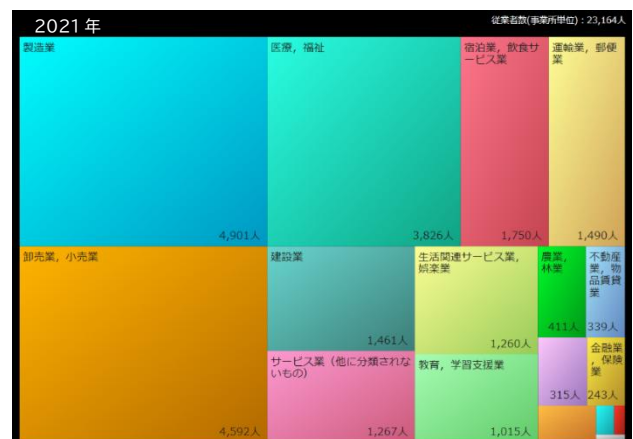
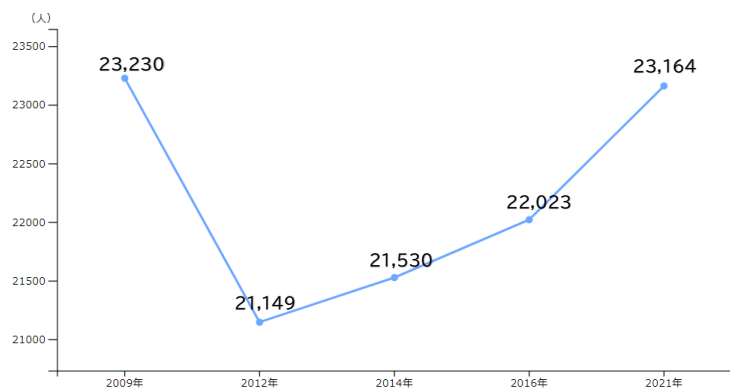
■2021年業種別割合をみると、卸売・小売業が404事業所で全体の21.4%を占めている。



【従業者数の推移・業種別割合】

■2009年の23,230人から増減を繰り返し、2021年には23,164人となり0.3%減少している。

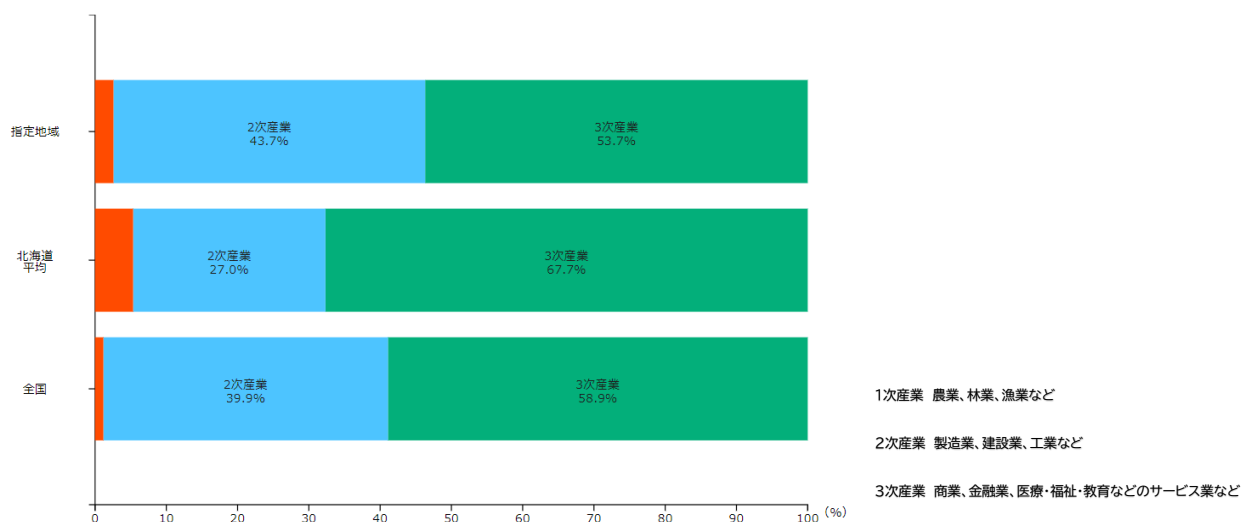
■2021年業種別割合をみると、製造業が4,901人で全体の21.1%を占めている。その後、卸売・小売業が4,592人の19.8%が続いている。



【地域内産業の構成割合】

■恵庭市の産業構成割合を全国及び北海道と比較したグラフである。

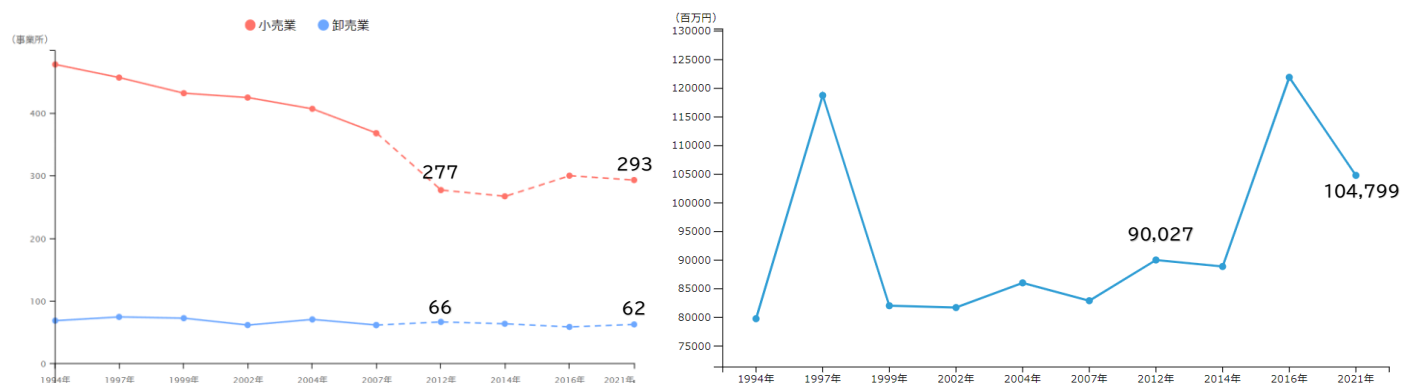
■2次産業については、43.7%であり、北海道・全国と比較しても高い割合となっている。



【小売・卸売業 事業所数と年間販売額の推移】

■事業所数について卸売業は1994年と比較しても横這いとなっている。小売業については1994年から2014年にかけては、毎年減少していたが、それ以降は増加傾向にある。

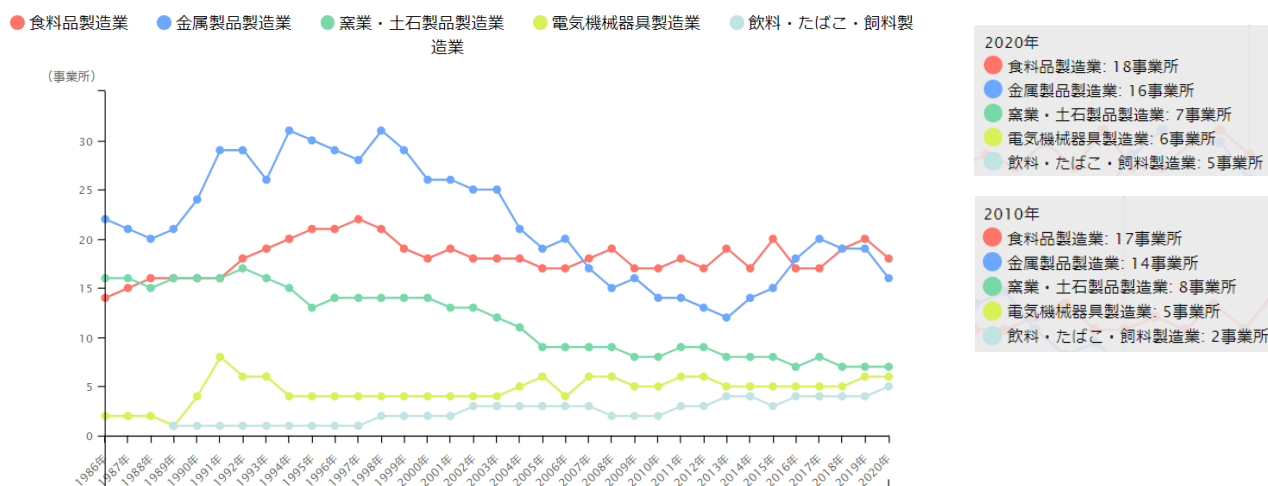
■小売・卸売業の年間商品販売額をみると、2002年以降回復基調にある。



【製造業 事業所数の推移】

■主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。

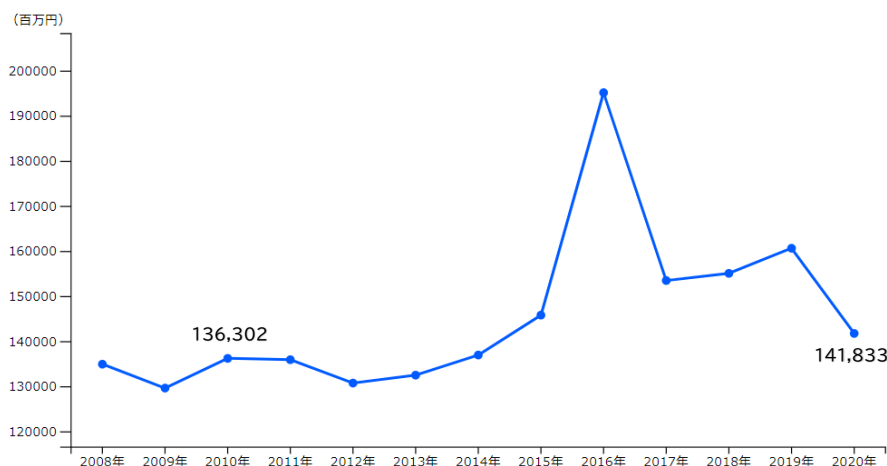
■2010年と2020年を比較するとどの業種においても大きく変化は無いが減少傾向にある。



【製造業 年間出荷額等の推移】

■製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。

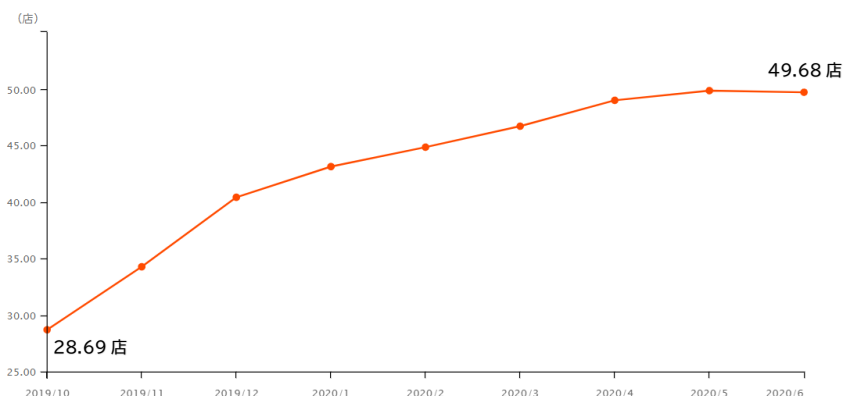
■2020年出荷額等は1,418億円、10年前と比較すると4.0%増加している。



【キャッシュレス 加盟店数の推移】

■人口1万人当たりのキャッシュレス決済加盟店数の推移を示したグラフである。

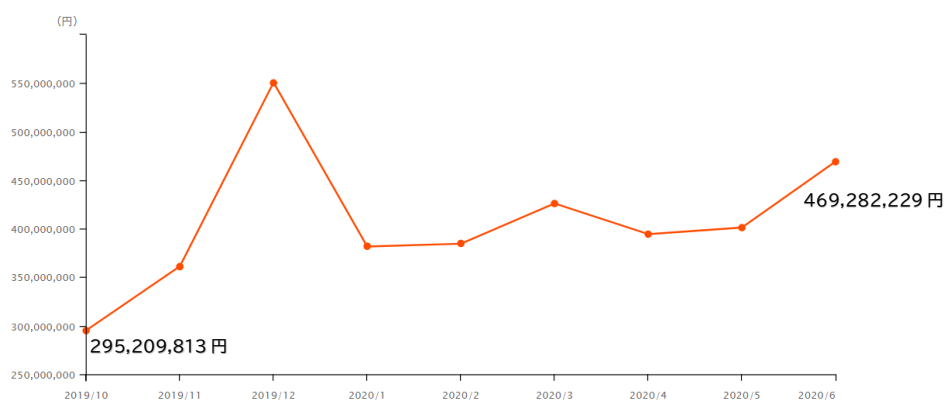
■2020年6月と2019年10月を比較すると73.1%増加している。



【キャッシュレス 決裁金額の推移】

■キャッシュレス決済金額の推移を示したグラフである。

■2020年6月と2019年10月を比較すると58.9%増加している。



【キャッシュレス 手段別区分、業種別区分】

■キャッシュレス手段別、決裁金額を業種別に示したグラフである。

■手段においては、クレジットカードが全体の44.06%を占めている。

■業種においては、小売業が全体の80.89%を占めている。

